

巻頭言

～山岳環境問題改善の活動は官民協働の仕組み構築こそが未来への道である～

山のトイレを考える会 代表 小枝正人

北海道の山を愛する皆さま

新型コロナウイルス感染禍が続いたこの1年、いかがお過ごしでしたか。現在もオミクロン株による第6波が猛威を振っています。どうやら人の世も新型コロナと共生して行かなければならなくなりました。

そんな中で、2021年度（令和3年度）の「山のトイレを考える会」は、多くの皆さまのご支援と協働に支えられて、目指していた活動をやり遂げることが出来ました。ありがとうございました。感謝するばかりです。詳しい内容は、本資料集に掲載しましたが大きな項目として2つあります。1つ目は、美瑛富士トイレ管理連絡会（北海道の山岳団体9団体で構成）・美瑛町・環境省による協働活動；美瑛富士避難小屋携帯トイレブースの維持・点検パトロール活動でした。2つ目は、裏旭野営指定地 携帯トイレ検討連絡会（北海道の山岳団体、自然保護団体等の18団体で構成）による大雪山裏旭野営指定地への携帯トイレブース設置のためのアンケート調査活動でした。美瑛富士のこと、裏旭のこと、いずれも未来に向けて継続していく協働の活動です。

また近い将来では2022年（令和4年）12月に、皆が日本で初めてと感じている原生的な魅力の日高山脈・襟裳国立公園が誕生します。それに伴い顕在化する山岳環境問題があります。国立公園化を契機にWeb 登山届制（道警のWeb 登山届を併合）を導入し登山者の全体利用情報を把握分析できるITデータベースシステムの構築・導入・運用を提案したいと考えています。それはヒグマとの共生とリスク対応にも役立つでしょう。

新たに新型コロナと共に歩みが始まれば、また海外から北海道の魅力溢れる山岳自然を訪れてくれる人々も増えます。本日の第23回目のフォーラムでは北星学園大学の専任講師であるロバート・トムソン氏から「ニュージーランドの山のトイレと比較して大雪山グランドトラバースのトイレを考える」と題して講演をしていただきます。

お話が楽しみです。では一緒に！

さて、2021 年度に実施した「大雪山裏旭野営指定地への携帯トイレブース設置のためのアンケート調査活動」から分かった結果はどのようなことだったでしょう。



大雪山裏旭野営指定地から望む旭岳とエゾコザクラ大群落

裏旭を利用する登山者の為と
大雪山の生物多様性を守る為
には裏旭に携帯トイレブース
の設置が強く求められる。
という結果でした。

これを受けて

2022 年度(令和 4 年度)に大雪山
国立公園連絡協議会に「大雪山の
トイレ問題を検討する作業部会」
を設置し、環境省、北海道(上川
総合振興局等)、地元町、山岳団体、
自然保護団体、研究者、事業者等
多岐に亘るステークホルダーで
話し合い、協働を行っていく姿が
見えてきました。



大雪山・旭岳 裾合平のチングルマ大群落

頑張っていくのは、これからです。

皆さまには、これからも変わらずご支援とご鞭撻のほど宜しくお願い致します。